

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども療育支援 イロTriミドリ放課後等デイサービス			
○保護者評価実施期間	2026年7月20日		～	2026年9月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47名	(回答者数)	38名
○従業者評価実施期間	2026年9月1日		～	2026年9月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年9月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	SSTと運動療育を組み合わせ、社会性やコミュニケーション能力、身体機能の向上をバランスよく支援している。	日々の活動にテーマを設け、子どもたちが楽しみながら学べるプログラムを実施している。また、年齢や発達段階に応じて内容や難易度を調整している。	活動を通して身につけた力を、学校や家庭など日常生活でも発揮できるよう、実践的な場面を取り入れた支援を充実させる。
2	子ども一人ひとりの特性や成長段階を理解し、それぞれの得意なことや可能性を伸ばす支援を行っている。	日々の様子や小さな変化を職員間で共有し、本人の気持ちやペースを尊重しながら、成功体験を積み重ねられるよう関わっている。	職員間で支援方法や目標を共有し、支援の統一を図るとともに、保護者や関係機関との連携を深め、継続的な成長につなげる。
3	法人内の高齢者デイサービス等との連携を活かし、多世代交流や地域社会との関わりを経験できる機会を設けている。	高齢者施設との交流会や買い物体験、公共交通機関を利用した外出などを通して、挨拶やマナー、社会生活に必要な力を実践的に学べる機会を設けている。	法人内の事業所や地域との交流機会をさらに増やし、さまざまな年代の方との関わりを通して、思いやりや社会性、自立に向けた力を育む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援について、職員間での理解や対応に差が生じることがある。	研修や事例検討を実施しているが、職員によって知識や経験、理解度に差があり、学んだ内容を実際の支援に活かすことが難しい場合がある。	研修や事例検討に加え、日々の支援場面で具体的な対応方法を共有し、職員同士で振り返りを行うことで、個々の理解度に応じた支援力の向上と支援の統一を図る。
2	螺旋階段や屋外につながる扉が複数あり、周辺道路も自転車や歩行者の通行量が多いため、活動時や送迎時における安全管理の徹底が必要である。	建物の構造上、児童の移動時や出入口の開閉時に注意が必要な箇所が多い。また、周辺道路は自転車や歩行者の往来が多く、飛び出しや接触事故のリスクがある。	階段や出入口での見守り体制を強化し、児童の特性に応じた安全確認を徹底する。また、送迎時の職員間の連携や周辺道路の安全確認を行い、事故防止に努める。
3	SSTや運動療育などの活動に加え、児童が自分のペースで過ごせる時間や環境の充実が必要である。	学校生活での疲れや感覚面の特性などにより、集団活動への参加が負担となる児童もいる。	児童の体調や気持ちに応じて活動量を調整し、安心して休息できる環境や過ごし方の選択肢を充実させる。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こども療育支援 イロTriミドリ放課後等デイサービス
------	----------------------------

公表日 2026年10月1日

利用児童数 2026年9月24日 47名

回収数 38名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	32	3	0	2	とても広いと感じました。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	32	0	0	6	多くも先生方にお世話になっています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32	2	0	4	分かりやすいです。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	35	2	0	1	とても綺麗です。	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36	2	0	0	子供の特性やペースに合わせてくれています。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	38	0	0	0	あっています。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	38	0	0	0	相談の上、作成してくれています。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	36	1	0	1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	38	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	36	1	0	1		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	16	4	2	16	他の子供達とも交流は分かりません。	地域のお祭り等に参加して自然と関わりを持っています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	37	0	0	1	ありました	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	38	0	0	0	ありました	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	4	5	11		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	32	6	0	0	とても思います	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	37	1	0	0	とても思います	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	37	1	0	0	とても思います	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	7	9	17		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	32	0	1	5	迅速かつ適切にご対応してくれています。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	35	2	0	1	思います	

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	36	1	0	1	LINEでご報告してくれています	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	35	1	0	2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	24	2	0	12	訓練の話も聞いています	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15	1	1	21	訓練の話も聞いています	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24	3	0	11	安全に気をつけてくれています	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31	0	0	7	適切な処置をしています	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	37	1	0	0	安心して通っています	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	34	4	0	0	毎回楽しみにしています	
	29	事業所の支援に満足していますか。	38	0	0	0	満足ですっと通いたいです	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年10月1日				
こども療育支援 イロTriミドリ放課後等デイサービス						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		4名～5名配置している	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		物をあまり置かず、広い空間を確保している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6		部屋数が少なく、区切られているスペースがないので、仕切りを作る。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		ミーティングを毎日開催	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		ミーティングを毎日開催	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				今年が初めての評価になる
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		同法人全ての施設と実施	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		アセスメントは時間をかけて行っている	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		計画書を毎回チェックしている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		全員で考える時間を作っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		全員で考える時間を作っている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		ミーティングを行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		ミーティングを行っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		細かいところまで記録記入している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		5ヶ月に1回の面談を実施	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		手作りのものを使い表現の幅を広げている	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		利用者様に関わる人には連携している	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		常にHPチェックしている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		開設当初、年長が多かったものでしていた	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		6		まだ卒業生がいない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		6		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		祝日等で地域のコミュニティに参加	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6		放課後デイの集まりには参加している
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6		こちらの勉強不足もため、まず勉強から
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		相談のお声は多い。対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		6		長期休みに計画で実施はまだ
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		職員間の連携は常に行っているため最後は必ず管理者が対応している	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		週3回のSNS配信を実施	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		鍵付きロッカーで保管。持ち出しなどしていない。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		毎月計画を立てて実施している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		年間計画の中で実施している	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		受け入れ前に事前に関係者やお子様にあつて確認をしている	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		今の所対応はしていないが、未然に防ぐため確認表は作成済み	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		話し合いを必ずして再発防止を徹底している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		法人内でも施設内でも設けている	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			